

合唱団も弾けた、ジャズのミサ曲



「Mass in Blue」を歌う飯田みち代(中央)

2016年に設立。合唱団員は両者の指導を受け、めきめき力を付け、過去4回の演奏会では宗教曲を中心に、多彩なアイデアとアレンジで聴衆を楽しませてきた。

今回はフ

合唱団CORMI

「歌声に勝る楽器はない」と言われるが、歌声の中でも最強だと思うのが(優れた)ソプラノである。合唱団CORMIの第5回演奏会(10月28日・東海市芸術劇場大ホール)で、飯田みち代の劇的な歌声を聴き、それを実感した。

CORMIは飯田と指揮者の井崎正浩によって

フランスの作曲家フランシス・プーランクの「スターバト・マーテル」(1951年初演)と、英国の作曲家ウィル・トッドの「Mass in Blue」(2003年初演)の2曲を披露(指揮は井崎正浩)。前者は27人の混声合唱とソリストの飯田、オルガンの吉田文、ピアノの重左恵里が共演。(クセになりそうな)独特の和音と、突き刺さるような

飯田のソプラノで荘厳な世界観を描出した。

後者はジャズによるミサ曲で、ピアノ百瀬愛利、ベース興津博規、ドラムス黒田和良、サクソフォーン切手崇博らジャズのス

ペシャリストが参加。合唱団はハロウィーン並み(?!?)の衣装で弾け、飯田は官能的なヴォーカルで聴衆を魅了した。なんとも楽しいコンサートだった。ブラヴィーノ!